

2025年11月13日(木)
中国新聞SELECT掲載

国際協力機構（JICA）が主催する、被爆国、日本の歩みから戦後復興の計画策定を学ぶ研修に参加するため、広島を訪れた。日本の人々は平和の構築と平和的共存に焦点を当てながら都市の再建に尽力し、今日の繁栄を築いた。間近で日本と広島の歩みを知る貴重な経験となった。

広島が成し遂げた復興は都市再建と平和志向を掲げた素晴らしい試みである。爆心地周辺にある歴史的な建造物となった原爆ドームや平和記念公園、原爆資料館（いず

被爆80年 リレー エッセー



イエメン マアレブ州副知事

アブドゥラフ・メフタ

広島 平和と国際協力の灯台

（広島市中区）は、過去と現在を融合させ、原爆とその影響を今に伝える世界平和の象徴である。原爆資料館では、人類が経験したかつてない悲劇の規模を想像し、深い悲しみと痛みを覚えた。同時に廃虚から立ち上がり、国際平和都市へと生まれ変わって、平和と和解のありさまを体現する広島（イエメン）では、2014年

以降の紛争で平和と寛容、基本的な行政サービスが失われている。人々には強い協調精神がある。祖先が自然と険しい地形に挑んできたわれわれイエメンの人々もまた、日本と同様、困難であっても互いに助け合う精神を持って、じきに困難を乗り越えたと信じている。

広島と日本で得た教訓は故郷マアレブ州での復興・再建計画、アイデアに生かすため同僚や友人たちと共有する。そして平和は、市民が安定や公正を実感し、基本的なニーズが満たされることから始まる。この考えを基とし、地方政府の立場で行政力の強化と効率化された公共サービスの提供に取り組んでいきたい。

広島は今も、そしてこれからも平和と共存の象徴であり続け、過去と現在を見事に融合させていくだろう。日本のさらなる発展を祈念し、広島が今後も平和と国際協力の灯台であり続けることを願っている。

随時掲載します